

智積院ちしやくゐん

〔養源院やうげんの東にあり、真言新儀派、開基正憲法印しやうけん。此地初めは豊太閣御子ほうたいかふ棄君菩提すてきみほの為に創建ありて、祥雲

禪寺と号す。厥后故障ありて妙心寺玉鳳院に移す、事は四巻妙心寺の部に見えたり。將軍家より覺鑊派断絶を惜み、初瀬に小池坊を創し、当院をこゝに建る〕

原当院は法住寺殿はふぢゆうじの古蹟、北は滑谷妙法院を限り、南は新態野瓦阪を限る。林泉は東に翠巒層々として深林の中に宝閣寂々たり。客殿書院俱に百花の図長谷川等伯はせがわとうはくの筆、玄関松に鶴の画も同筆なり、みな惣金極彩色なり、艸木の絵の屏風一雙も極彩色にしてこれも等伯の筆なり、生涯の奇筆にして世に比類なし。